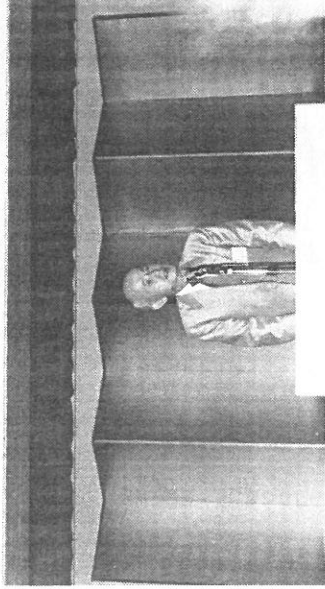


昭和59年度 大阪消防清風会 総会



就任あいさつの大塚新会長

第18回 大阪消防清風会総会開催 大塚新会長選出される!!

恒例の昭和五十九年度総会が七月十二日、大塚園において西尾大阪市助役をはじめ各来賓のご臨席を得て盛大に開催されました。

まず、会長あいさつが飯田会長欠席のため奥野副会長により行われたあと、西尾助役から「日頃、会員各位の大阪市政に対する協力等について感謝の言葉をいただき今後とも大阪消防発展のためご尽力ください」とあいさつがあり、米養を代表して村井大阪市連合防炎協力会副会長から「消防生活での経験と知識を生かし地域・職場での防災の指導者として活躍ください」との祝辞があり議事に入った。

議長に奥野副会長を選出し議案審議に入った、事務局から去る五月十七日の理事会において審議された昭和五十八年度事業結果及び歳入歳出決算報告並びに監査結果が報告され承認された。次に同じく理事会において審議承認された昭和五十九年度事業計画及び歳入歳出予算(次頁参照)の説明

明、並びに会則第六条の「副会長二名」を「副会長四名」に、また会則第十一条第一項中の「顧問」を「名誉顧問及び顧問」に、同条第二項として「名誉顧問は、本会の会長職を務めたもので、理事会が推せんし会長が委嘱する」の項を加え、第二項を第三項とし、第三項を第四項とし同項中の「顧問」を「名誉顧問及び顧問」とする会則の一部改正について報告がなされた。

次に、役員改選について議長から「五月十七日の理事会で飯田会長が健康の理由で会長職を辞任する旨の申し出に基づき、理事会ではかつたところ顧問の大塚弥三郎氏が満場一致で新会長に推選され、大塚顧問も会の発展のため承諾いただいた」との説明があり、会則により会長の選出が本総会ではかられ満場一致で新会長は大塚顧問が承認されました。また会長以外の新役員についても別表のとおり承認され各議案の審議が終了しました。このあと大塚新会長の就任あいさつがあり「本会発足以来、今日まで清風会の発展のために尽力された飯田前会長の功労に対して敬意と感謝の言葉を述べるとともに、今後各支部の結成・充実・役員強化をはかり、清風会のより一層の発展に力をそそぐ旨の決意表明があり、これからも会員各位の協力と支援をお願いします」と結ばれた。最後に糟崎消防局長から「今後も大塚新会長を中心として本会が発展するよう念願します」とあいさつがあり第一部総会を終了し、第二部の懇談会も終始なごやかなうちに会員相互の親睦を深めて終了した。

- ### 新役員
- 会長 大塚 弥三郎
 - 副会長 奥野 利秋
 - 〃 藤田 浅太郎
 - 〃 黒本 勝夫
 - 〃 向坂 富蔵
 - 常任理事 吉川 幸一郎
 - 理事 全員 留任
 - 監事 岩崎 延雄
 - 〃 松本 七郎

回想

私は、昭和七年六月大阪府消防吏員としてスタートし、消防生活三十六年、本年七月八日七十三才の大の仲間入りをしました。

私は、大阪消防人としての誇りを失わず私なりの日々好日を重ね、大阪消防清風会とは発足当時から、ご縁が深く、会員の皆様との心の交流を感謝いたしております。

また、私が今日あるのは郷里に鎮座の「火の守り、安全の守り本尊」秋葉大権現神社(秋葉さん)のご加護の賜ものと信じ、信仰いたしております。

十八年間、清風会々長として会を育成された第二代会長の大塚消防局長 飯田博会功績をたたえます。

(一) 飯田博前会長をたたえる。

昭和四十二年十一月二十七日、大阪市中央公会堂において、本会の創立、総会が盛大に開催された。

赤井 次郎

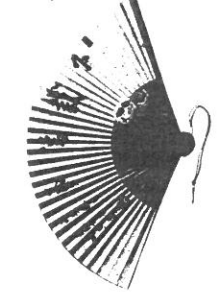
理め、伝統を誇る大阪消防(大阪府下一巴)育ての強者の先輩諸氏が、久方ぶりの集いで和気あいあいのうちに会則 役員改選が行われ、本会は力強い発足をみた。会長に、飯田博元消防局長を選任し、就任された。

爾來、十八年間の育成、会員相互の親睦を図り、年々隆盛を極め、大阪消防Bとしての誇りのもとに今日を迎えた。

これひとつに、飯田会長の優れた識見、円満なるご人格、手腕のたまもので、心から敬服感謝し、今後最高顧問として引き続き指導を賜ることは誠に喜ばしいことで、どうか健康に思まれ、機会あるごとに温存に接することを願つてやみません。

ちなみに大阪消防清風会の命名は、中馬警大阪市長にお願いして、記念品(扇子)に印刷する色紙をお願いした。

中馬市長は快く「下敷清風」を揮毫下さった。



叙勲に輝く人々

昭和五十九年の生存者叙勲において次の方が受章されました。

春の叙勲 (昭和五十九年四月二十六日付)

- 勲五等双光旭日章
元大阪消防正監
岡田正治(71才)
枚方市招提中町
一四四二一四〇四
- 勲七等青色桐葉章
元大阪消防司令補
村上竹一(68才)
東住吉区駒川
一一二二二三
- 勲七等瑞宝章
元大阪消防司令補
豊田清治郎(66才)
鶴見区放出東
二五五四一一〇六

秋の叙勲 (昭和五十九年十一月三日付)

- 勲五等瑞宝章
元大阪消防正監
山形一雄(75才)
東大阪市新喜多
三六一一七
- 勲七等青色桐葉章
元大阪消防司令補
西脇 實(66才)
東大阪市衣摺
一一五一一〇
- 勲七等瑞宝章
元大阪消防司令補
塩谷修三(75才)
寝屋川市若葉町
一一二二
- 従六位勲五等瑞宝章
元大阪消防監
故川井清治郎(68才)
吹田市垂水町
一一三〇一十五

紳士服 and 制服

紳士服・コート・ズボン
各種 学校 用 制服
消防服・消防作業服
警備服並びに警備用品

営業品目

リベラル服装株式会社
取締役社長 北野 利幸
大阪市東区谷町3丁目6番地
電話(06)943-1143・941-4818

〒540 大阪市東区谷町3丁目5番19号
一般 旅行 業 務 取 扱 主 任 者
三 上 正 幸
心斎橋営業所
☎(06)252-1781 (代表)

赤井 船

新は、生きる知恵

夫婦円満の旅

この夫婦だけしか
参加できません

お申込みは簡単、
お電話でもOK!

沖縄・石垣 (往) 夫婦円満4日の旅	3泊4日	往復飛行機
148,000円(税別)		
沖縄 (往) 夫婦円満3日の旅	2泊3日	往復飛行機
99,500円(税別)		

心斎橋営業所
☎(06)252-1781 (代表)

出初式のご案内!!

〇大阪市消防出初式
一月七日(月)
午前十時
北区桜宮公園一帯

〇水上出初
一月十日(木)
午前十時三〇分
安治川第一岸壁一帯

米歴を調べてみると、全国各地にある秋葉大権現神社の本社(もとやしろ)は、静岡県岡原郡岡原町大居町秋葉土神(別名 水産(水産)神)秋葉山本宮秋葉神社と称する。古来、防火の神であると供に、穀物、食物を焚く火の神、また焼畑耕作における守護神ともいわれている。私の、出生地に鎮座する権現神社は、数百年前に鎮座さん、私が在郷中村役場を往来し、そのつと、参拝した権現さんで、たま〜

秋の叙勲(昭和五十九年十一月三日付)

勲五等瑞宝章
元大阪消防正監
山形一雄(75才)
東大阪市新喜多
三六一一七

勲七等青色桐葉章
元大阪消防司令補
西脇 實(66才)
東大阪市衣摺
一一五一一〇

勲七等瑞宝章
元大阪消防司令補
塩谷修三(75才)
寝屋川市若葉町
一一二二

従六位勲五等瑞宝章
元大阪消防監
故川井清治郎(68才)
吹田市垂水町
一一三〇一十五

昭和58年度歳入歳出決算報告書

昭和59年5月17日 下記のとおり報告する。会長 飯田 博

昭和58年度歳入歳出決算書

1. 歳入金 2,239,237円
1. 歳出金 1,996,930円
1. 差引残高 242,307円 (翌年度へ繰越)

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 増減 (増減). Rows include 1. 歳入金, 2. 歳出金, 3. 繰入金, 4. 繰出金, 5. 繰越金.

昭和59年度歳入歳出予算書

1. 歳入金 2,130,000円
1. 歳出金 2,130,000円
1. 差引残金 0円

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 増減 (増減). Rows include 1. 歳入金, 2. 歳出金, 3. 繰入金, 4. 繰出金, 5. 繰越金.

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 増減 (増減). Rows include 1. 歳入金, 2. 歳出金, 3. 繰入金, 4. 繰出金, 5. 繰越金.

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 増減 (増減). Rows include 1. 歳入金, 2. 歳出金, 3. 繰入金, 4. 繰出金, 5. 繰越金.

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 増減 (増減). Rows include 1. 歳入金, 2. 歳出金, 3. 繰入金, 4. 繰出金, 5. 繰越金.

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 増減 (増減). Rows include 1. 歳入金, 2. 歳出金, 3. 繰入金, 4. 繰出金, 5. 繰越金.

この予算は項目についてこれこれ流用できるものとする。

昭和59年5月17日

会長 飯田 博

終身会費積立金

Table with columns: 歳入 (歳入), 歳出 (歳出), 残高 (残高). Rows include 昭和57年度未残高, 預金, 昭和58年度繰入金, 昭和59年3月末現在高.

消防史誌からの思い出

吉田 英吉

「蔭も日向なり、日向も蔭となる。」との古い諺がある。成る程と、処世に精進す、よすがとし、その活力の源泉ともして来たが、月日は、流水の如く去って、早や、吾が人生にも、馬駒を重ね古希を迎え、驚き入っている。定年退職後の二度の務めも、約十年、恙なく終えて五年目、感謝の日々に明け暮れています。徒々のままに「大阪消防の歴史」大阪消防三十年の「あゆみ」を抜き出し、繕いて殊更に気づかれるのは、写真掲載者のみで、他界さ

初動である。その最下より注視の教官から呼応の「フアイト」と、鋭い声援の激音が送られる。心技体、気迫に満ちた練磨の姿を見こたまが兆ね返ってくる。渡る隊員の顔も手も桜色、必至と渡り続けるのであった。誠に、真摯無我の境を往く隊員の姿には、思わず眼に熱いものを覚え、畏敬の念に打たれた感激が、今も蘇ってくる。時の体験者、故釈迎堂好治氏(当時四十一歳)の体験記にもこう記述されている。「...教養を受けた中でも、一番苦しかったのは、初めて握るカラビナと、高さ十二メートルの「水平渡り」に、寒さと緊張でガタガタ震えが止まらない。無我夢中で渡り終った時、下からの拍手。それ以来自信が付き、小・中学校での特科隊技訓練にも、自ら進んで若い隊員とともに、よく頑張ったものである。」と、貴い体験記で結ばれている。

かなしみ

- 次の方々が無事なご逝去されました。ご遺族には本会から哀悼の意を表しました。相川燈磨氏 昭和58年9月22日 馳川太郎氏 昭和58年10月22日 米田実氏(69才) 昭和59年3月26日 杉村芳雄氏(58才) 昭和59年4月1日 田中芳雄氏 昭和59年4月27日 妹尾真吾氏 昭和59年5月21日 高橋隆二氏(69才) 昭和59年7月22日 和田八郎氏(72才) 昭和59年8月10日 日高伸次郎氏(64才) 昭和59年8月23日 平井明治氏(69才) 昭和59年9月14日 秋山辰夫氏(58才) 昭和59年10月12日 児玉敏義氏(77才) 昭和59年10月31日

ほんとうに気にしてますか火の用心

大阪市防火標語(期間59年11月26日~60年11月25日)

新 会 員 紹 介

氏名	〒	住 所	TEL	退職時の所属(年月)
河合邦雄	576	交野市藤が尾4-12-6	(0720) 92-3950	北 北 S.59.6
西田為雄	536	城東区野江3-2-12	(06) 932-4935	計画課 S.59.6
宮毛 肇	634	橿原市鳥屋町1323 C5-205	(07442) 7-7101	東淀川 S.59.4
荒堀 貞夫	584	富田林市伏見堂200	(0721) 34-2915	南 S.59.6
四方 洋一	531	大淀区国分寺1-7-4	(06) 385-4585	此 S.59.7
宮西 正	636-03	奈良県磯城郡三宅町石見61-14	(07454) 4-2032	旭 S.59.1
多羅尾篤巳	635	大和高田市敷島町240-26	(0745) 53-4412	西 成 S.59.6
石橋昭雄	584	富田林市須賀653	(0721) 29-6823	計画課 S.57.6
中島実二	544	生野区中川2-12-6	(06) 751-4210	高 S.49.6
清水秀雄	557	西成区山王3-9-7	(06) 649-4888	旭日橋 S.20.9
沼波 實	542	南区谷町7-2-33	(06) 761-0096	南 S.20.12
長岡泰治	598	泉佐野市鶴原548-34	(0724) 63-1506	設備課 S.59.7
竹田重男	574	大東市泉町2-1-32	(0720) 72-2317	北 S.55.2
横田信夫	636-03	奈良県磯城郡原本町阪手138-11	(07443) 3-3161	東 成 S.59.7
宮本 茂	631	奈良市平松町894-1	(0742) 43-9701	東 成 S.59.7
三井正嗣	580	松原市別所町5-15	(0723) 34-1902	阿倍野 S.59.7
大串國夫	630-02	生駒市老分町1388-51	(07437) 6-8343	鶴 島 S.59.7
山本正徳	660	尼崎市長洲東通2-51-1-605	(06) 489-4486	西淀川 S.59.8
清原奎吾	577	東大阪市中小坂1-23-19	(06) 723-1844	西 成 S.59.8
給木典雄	537	東成区深江南2-2-22	(06) 974-1375	城 東 S.59.8
辻野 勉	536	城東区関目6-14-B-1107	(06) 933-8316	水 上 S.59.8
寺西年男	578	東大阪市長江126	(0729) 62-7024	東 S.59.8
西田千代次	538	鶴見区徳庵2-5-21	(06) 911-0122	東 成 S.59.8
西村昭次	607	京都市山科区御陵鳥向町6-3	(075) 581-6447	野 S.59.8
亀田和重	593	堺市和町823-5	(0722) 91-1353	東住吉 S.59.7
塩崎 一雄	590-04	泉南郡熊取町大久保218-28	(07245) 2-3617	西 S.59.3
津崎秋則	590-04	泉南郡熊取町小垣内274-323	(07245) 3-6370	北 S.59.9
坂下一義	547	平野区喜連5-7-22	(06) 707-5187	平 野 S.59.9
堂野三佐雄	591	堺市金岡2206	(0722) 59-0954	鶴 島 S.59.9
吉田 猛	551	大正区南恵加島6-6-17	(06) 551-9145	水 上 S.59.9
田中清次	573	枚方市業父東町150-15	(0720) 50-0514	北 S.59.9

雑 談 (思い出さまざま)

田中 隆夫

つい先頃、ゴルフへ行く車の中で「そう今日は五月十三日、あの千日デパート火災(昭和四十七年五月十三日)のあった日だなあ今日は十三回忌が営れるんじゃないかな」と、十一年前の出来事が、新たに頭の中に引き出され、いろいろの思い出が湧き出てきた。暫し、当時のことを話題にゴルフ場へと急いだのである。

三日後の五月十六日には、本事件にピリオド(過去九十七回の公判が行われてきた)が打たれる。三被告に対する最終判決の云い渡しが行われた。先の公判でなされた量刑は退けられ、意外や全員無罪と云う結果であった。この判決に対しては各方面で、かなり動揺ざわめきがあったようでも、国民の大方が一八名もの死者を出した大事故(わが国ビル火災史上最大の事故と云われる)にもかかわらず誰もその責任を問われないなんて、そんな馬鹿なことが一の声が聞かれた。決して誰れに何んの責任もなかったと云うものではない。ただ当時のいろいろの社会的背景の中で、果して何が、どうであったかを結論づけるにはむづかしく、個人的責任を問うには割り切れない問題があるように、鏡れない。ただあのときに、少くとも誰かが、いち早く下階での出火の状況を七階に通報してやっておれば、唯一の屋外避難階段の利用を知らしめ、これに避難誘導の声を放つてやっておれば犠牲者は皆無に近く、あのような大惨事には至らず、単なる火災だけで済んでいたであろう筈なのに、今もって悔まれてならない。

思えば、当日、当時の現場に近く在って、あの事故の発生を知り、現場(飛び降り、梯子車での救出)を見れば、慄然とし、消防局にとつて掃り、服装を整えて現場に引き返し、終始、状況の推移を目の辺りにして、翌朝鎮圧とともに、七階ア

レイタウンに足を踏み入れたときの様子など、その後三ヶ月余にわたり状況調査、調査団との対応、本火災の教訓を生かし、行政に反映させるべく、法令改正への作業など目まぐるしい日々を過ごしたことの、様々のこと思い出される。結果、昭和四十九年六月一日消防法の大改正が行われ、地下街、百貨店、雑居ビルなどの消防用設備等(とくにスプリンクラー)について、その及適用など、ビル防火とビル防火管理について規制が強化された。しかしながら、消防用設備等については、ほぼ、その目的が達成されつつあるも、防火管理の状況については今いづれでも、その制度改正についても一応の検討が終了し、今後、法令の改正が行われ、それがそれぞれビルのビルにおいて実践されたい限り、いつの日かまた、どこで、どのような事故が発生しないとの保障が得られない現状にあるように思える。しかし、このような事故が二度と起つてはならないし、断じて起してはならない。

先般、雑誌「近代消防」に自治体消防三十五年史が掲載され、三十五年(小生は、昭和二十三年九月二十日拝命、昭和五十八年六月退職)間における記録に残る火災事故が取り上げられていた。あれも、これも大変なことだったなと、その一つ一つが思い起されたものである。そう、昭和四十五年四月八日の天六でのガス爆発火災も大変なことだった。

警防部長と現場に飛び、あの阿修羅と化した現場で一夜を明かしたときのこと、今、また新たによみがえってくる。災害は、忘れたころにやってくる。いつどこでどんなことが発生するかも知れない。台風が大雨が、大地震といった自然災害が、どんな被害をもたらすことか、可能な限り予見、予測できるものについて、普及から、それに対応できる体制や、そのための予防措置に万全を期しておかなければならないことを痛感する。

ところで、今、世は挙げてニューメディア時代とが、毎日の新聞紙に取り上げられている。ニューメディアとは、エレクトロニクス、コンピュータを駆使した高度情報化社会のことであろうか。通信衛星、放送衛星を媒体として、あらゆる情報の提供と入手、それを多様化する。VAN(付加価値通信網)とかINS(高度情報通信システム)あるいはLAN(企業内情報通信網)とか、あらゆる通信網を張りめぐらし、それを利用することによる企業化がどんどん進んでいる。大阪消防も、すでに火災、救急指令業務の自動化(コンピュータ化)が図られ、また、本年四月一日からは、画像消防情報の電送システムが運用開始され、早くも四月四日の大阪科学技術センターでの火災にあって、そのメリットが高く評価されたようである。まさに世はコンピュータの汎用によるオンライン化、ネットワークシステム化により、あらゆる情報、資料の提供入手が瞬時、短時間で得られるようになっている。私の勤めている会社は、ご承知のとおり、わが国で始めてつくられたガードマン会社(昭和三十七年七月創設)であるが、昭和四十一年には早

くもコンピュータを導入し、通信回線を利用したマンマシンシステム(機械警備)として従来のガードマン派遣警備は特定の限られた対象物のみとし、今や全国で約十二万件に及ぶ対象物についてはマンマシンシステムによる防火、防犯の警備(遠方監視、遠隔移転方式)を主たる業務としている。これはコンピュータによるオンライン化、ネットワークシステムであり、時代の要請により、顧客ニーズは益々高まり、順増の傾向にある。ただし今のと

昭和十八年当時の朝日橋消防では出張所が上福、海老江、浦江、吉野、下福、安治川、大和田、豊島、北港、桜島があった。毎朝本署で検閲が終ると半分は別れてポンプ操法と小隊訓練が午前中行なわれていた。北港、桜島勤務だと市電でゴトゴトと随分時間がかかったもの、時々安治川勤務となると歩いて交代に رفتらなければならない。初めての春日出小学校では震えが止まらなんだ。この十八年の

朝日橋消防の思い出

玉置 源三

は必要の他一言も言わぬ先輩だった。一旦夜会話無しの勤務はうんざりして、日中河のボンボン船の音を聞いて過ごしたのもだった。大和田勤務だとこれも遠い出張所で、交代に行くだけでも大変だった。夏は、ポンプ操法と小隊訓練で服は服を蒸暑えていた。火災現場ではいつもどこかの分隊長が署長にヒンタを買ったものだった。署員は髭のはえは皮の長靴で短剣を吊つては、フラフランス、レオ、ホワイトとか何んとかで外車が多く真鍮がやたらと多くて毎日キョキキョキと磨いたものだった。この十八年の後半当りより急速に真鍮事情が悪くなって食堂へ箱を持ってメンを受取りに行

前半はまだ良かった。二十九日の給料で兄の家へ十円を払い後十九円で十分だった。非番日の夕は、風呂の帰りがつも寄つて五十銭使ひのが、良い客と言うこととらしかつた。暇な日に行くと五人程の女給に食われ飲まれて五時間もやられたときもあつた。しかし後半秋頃にはこのカフェも無くなつていつて来て抜打訓練だの図上訓練だのが多くなつてきた。調教授場に大きい地図を付けて本部員が紙で作った大型の地図を地図の図の上にバラまく佐藤署長が大

中であつて、けだし、このようなシステムは当然の結果であつて、よりグレードの高いものが次々と出現してはとて及びつかないこととがし、それでもこのような産業社会の中にあつて学ぶべきことがいかに数多くあるところである。消防技術も日々新にして目ざましい。ハイテク時代の消防として、益々技術の研さんと共に、飛躍発展されることを望んでやまない。

会員住所訂正

次の方々の移転がありましたのでお知らせします。

猪熊 幸雄
〒586 葛城郡河合町高塚台 一―一―二二
〇七四四五(二)二八三五
大浜 佑一
〒586 鶴見区今津中三三二一 〇七 四六八1六〇一六

運命 鑑定所

神霊学易断本部

大 正 士
大 鑑 定

北 村 勝 大

大阪市住吉区墨江東2丁目17番地
TEL (06) 673-6786 番
出張所
TEL (0722) 23-6348 番

建物の総合管理

(昭和43年9月1日創立)

★定年退職後のあなたの……
★消防の経験を活かせる……
★安定した職場です。

(事業所は大阪市内)

大阪防災管理株式会社

社長 赤井 次郎 (元大阪市消防局長)
大阪市西本町1丁目6番2号
(地下鉄四ツ橋線 本町駅下車)
TEL 06 (531) 2714 (代)
自宅 06 (797) 1525
気軽にご相談ください。

高級紳士服御詠 専門店

高級既制服

宮崎洋服店

宮崎 茂

〒573 枚方市岡山手町9番10号
TEL (0720) 41-2544

社団法人 大阪市防火管理協会

会長 小林 洋